

第3回 次世代交通ビジョンおきなわ策定に関する有識者会議 議事要旨

日時：令和8年5月27日（水） 10:00～11:30

場所：南部合同庁舎5階第1、2会議室

1. 資料1-1 有識者会議設置要綱の改正について

- ・ 質疑なし。

2. 資料1-2 令和8年度のスケジュール（案）について

- ・ 質疑なし。

3. 資料2 ステップ2の実施方法等について

未来像と交通課題の整理方法について

福田委員

- ・ 5つの未来像は、バランスが取れているように感じるものの、「歴史の発展」や「事故や不安がない」といった表現が具体的に何を指すのか精査が必要である。
- ・ 資料2の3ページで示される未来像と交通システムの課題の関係表について、そもそも交通システムの課題の8項目が適切かどうか精査するとともに、違いを明確にする必要があると考える。例えば、4)の経済的・時間的負担の軽減と6)経済性の向上は、表現が異なるだけで内容が重複している印象を受ける。
- ・ また、未来像と交通システムの関係を示す表のマスをすべて埋めることが求めているわけではないように感じ、結果的に対角線しか埋まらない可能性もあると考える。どのような意図でこの表を活用し、何をアウトプットしたいのかを教えてください。
 - 課題に重複があるため整理をしたい。また、どのようなアウトプットを示す表なのかを再考し、整理する。（事務局）
 - 内容が抽象的であり、同じことを繰り返している印象を受けた。（石垣委員）

當山委員

- ・ 資料2の3ページで示される交通システムの8つの課題はどのような枠組みで設定されたものか。
 - 昨年度実施したステップ1において、県民から聴取した意見を集約したものである。（事務局）
- ・ 人の欲求段階（マズローの法則）の観点から見ると、自己実現の前提として安全・安心や命を守ることが重要であり、交通においても安全は根幹に位置づけるべきであ

る。普天間周辺の事故の多さや道路標識の見えにくさ等も踏まえ、渋滞解消や交通空白解消とあわせて、安全の位置づけを検討いただきたい。

- 安全について非常に重要な要素であると認識している。ビジョン内での位置づけ、関係機関との連携も含めて検討したい。(事務局)
- 安全については、ワークショップ等で住民から直接意見が出ない場合でも、交通ビジョン上必要な要素として取り上げる必要がある。(神谷委員)

地域別検討の進め方について

福田委員

- ・ 北部地域について、名護市のような都市部と国頭村のような地方部では状況が全く異なる。北部を一括りにすべきではないのではないか。
- 北部の区分について、市町村職員の意見を聴取しながら検討する。(事務局)

親川委員

- ・ 離島のエリア分けについて、宮古島と石垣島で公共交通の成熟度が異なると共に、離島によっては公共交通がない離島もあるため、分けて整理していただきたい。
- 離島市町村の方と相談しながら整理したい。(事務局)

南木委員

- ・ 中南部圏域の区分については、那覇からの直線距離だけでなく、各地域内の拠点との関係や、那覇までの所要時間といった時間距離も踏まえ、区分の考え方や見せ方を工夫する必要がある。
- 交通空白地域や渋滞の状況なども踏まえながら、区分や見せ方を検討したい。(事務局)

ワークショップ・意見聴取の設計について

石垣委員

- ・ ステップ2は地域単位の検討であることから、地域の中の「どこで」「いつ」「どんな人が」移動において課題があるのかを聞いた方が良いのではないかと。
- ・ アウトプットも表形式ではなく、地図へのマッピング形式の方が、参加者も生活実感に即して意見をしやすいのではないかと。
- 議論の際には、文字だけでなく地図等を活用し、意見が出やすくなる工夫をしたい。(事務局)
- ・ ワークショップの実施にあたっては、パーソントリップ調査や関連業務のデータを活用することが有効であり、どのようなデータを参加者に提示するのか確認したい。また、既存データから見える地域の現状や課題を事前に整理して参加者へ示し、それを

踏まえて地域の実情や認識を確認する形とすることで、より意見を出しやすくなるのではないか。

- 県民との対話の中で提示する資料は委員へ事前に共有する。県民ワークショップなども可能であれば委員の方にご参加いただきたい。(事務局)

當山委員

- ・ 次回のワークショップは地域の実情を把握している市町村職員に限定したものであり、開催の方法として良いと思う。一方で、市町村職員は決まった時間に勤務し、経済的にも安定していることが見込まれており、偏った意見となる可能性もある。地域の産業や就業形態、就業者の規模などもステークホルダーの観点として重要ではないか。
- 沖縄県では、高齢者や一人親家庭、労働者等の移動課題を把握するため、関係団体や事業者との意見交換を予定している。また、観光や物流に関わる移動課題を把握するため、観光事業者や運輸関係事業者との意見交換を予定している。(事務局)

親川委員

- ・ 他事業で実施した PI の活用方法に向けた整理の中で、妊産婦と困窮者は課題の性質が異なるため、並列ではなく分けて整理する必要がある。また、「移動しやすいバリアフリー化」という表現については、専門的な観点から見ても違和感がないよう、表現を精査する必要がある。
- 表現を精査する。(事務局)

南木委員

- ・ 交通需要の発生源となる企業側の取組も重要であることから、市町村職員や県民に加え、企業へのヒアリング等を実施することが望ましい。

神谷委員

- ・ 昨年度実施していた Web での意見聴取のように、意見募集窓口を可能な限り継続し、チラシ配布やマスコミ周知なども活用しながら、多様なチャンネルを通じて県民の声を幅広く把握していただきたい。
- ・ 離島の意見聴取に向けては、保健師や公共交通担当者などが参加する既存の会議・ネットワークの活用を検討していただきたい。

交通システムに見られる課題の整理について

石垣委員

- ・ 交通システムに見られる課題を◎・○・△で優先順位付けすることは難しいのではないか。課題の優先順位は、意見数ではなく、誰が・どこで・何に困っているのか、何を改善したいかを踏まえて整理する必要がある。現時点の資料では、最終的に交通渋滞の解消と交通空白地域の解消の優先順位が高くなるように見える。地域ごとにこの取り組みをやっていくという整理の仕方が、良いのではないかと。
 - 交通渋滞解消と交通空白解消の課題を単純に比較することは難しい。どの課題から着手すべきか、時間軸で優先順位付けして整理したい。(事務局)

神谷委員

- ・ 課題把握にあたっては、自治体における公共交通会議の開催状況や、国の生活交通確保維持改善事業への取組状況等を整理することで、地域ごとの取組度合いを把握し、住民が抱える課題が何かを見ていくと良いのではないかと。
- ・ 交通空白解消は、公共交通の有無のみで一律に捉えるのではなく、高齢者や障害者などの個人属性や、通院・買物・通学といった活動目的との関係で生じるものとして整理する必要がある。誰にとって、どのような活動において移動が困難となるのかという視点が重要である。
- ・ 地域の現状を把握する際には、公共交通のサービスレベルだけでなく、買物施設、学校、病院など生活に必要な施設の立地状況や集積度もあわせて分析する必要がある。施設が徒歩圏内に集積している地域とそうでない地域、また施設が少なくとも公共交通によるアクセスが確保されている地域とそうでない地域では課題の性質が異なるため、両者を組み合わせて評価することが重要である。
- ・ 地域ごとの課題整理にあたっては、個人ごとの詳細なペルソナ設定までは求めないものの、高齢者、障害者、子育て世帯など一定の属性ごとにグループ化し、地域特性と掛け合わせながら課題を把握する視点が必要である。地域類型ごとに、どのような人がどのような移動上の課題を抱えているのかを整理することで、より実態に即した交通空白地域や移動課題の把握につながる。
- ・ ワークショップ参加者の意見を分析する際には、居住地（町丁目レベル）、運転免許や自家用車の保有状況、家族による送迎の有無など、どのような交通環境や移動条件に置かれた人の意見なのかを踏まえることで、地域や属性ごとの課題をよりの確に把握できる。
- ・ ワークショップで得られる意見だけでなく、参加者の属性情報と組み合わせて分析することで、地域ごとの交通サービス水準と移動課題の関係を整理できるのではないかと。どのような属性の人がどのような課題を感じているのかという視点で整理する必要がある。

地域ごとの交通のあり方について

石垣委員

- ・ 解決手法について色々なアイデアが出てきたとしても「交通手段の組み合わせ」に収斂されていくように見える。
 - 交通のあり方の整理については、県民が望んでいるものをビジョンの中で示していくため、解決策は固定せずに進めていきたい。(事務局)
 - 沖縄の交通課題は大きく「交通渋滞の解消」と「交通空白の解消」の2つに分類できると考えており、この枠組みの中で、地域ごとにこれらの解消に向けたあり方を整理したい。(事務局)
 - 「交通渋滞の解消」は自動車から見た視点、「交通空白の解消」は公共交通から見た視点であり、課題の視点が異なっているように感じる。(石垣委員)
 - 自動車の移動が良い場合、公共交通の移動が良い場合がある。「交通手段の組み合わせ」の観点から地域をどのように支えるか検討したい。(事務局)

安藤委員

- ・ 交通手段別にあり方を整理すると、交通手段にとらわれないソフト面の解決策が抜け落ち、解決策の候補を狭めるおそれがある。課題解決のあり方は、手段別に限定せず幅広く整理する必要があるのではないかと。
 - 交通手段を限定せず、幅広くあり方を検討できるようにしたい。(事務局)
 - 交通のあり方は、交通手段を前提に整理するのではなく、まず地域ごとの課題解決に向けた考え方を整理し、そのうえで必要な手段を選択する流れとすべきである。また、自動運転車など将来的な手段については、既存の交通手段と同一の時間軸で整理することは難しいため、見せ方を工夫する必要がある。(南木委員)
 - 交通のあり方は、まず考え方を整理した上で手段を選択する形で検討を進める。また、自動運転車については将来的に重要な役割を担う可能性がある一方、既存の交通手段と同一の時間軸では整理しにくいいため、整理方法や見せ方を工夫する。(事務局)

神谷委員

- ・ 骨格となる「幹」の交通軸のあり方については、県民意見だけでなく、県として運転手不足や安全確保などの観点も踏まえた専門的な検討により示す必要がある。
- ・ 地域の実情に応じた移動手段の確保については、住民や多様な属性の利用者の意見を踏まえて検討する必要がある。路線バスがない地域でも介護送迎などの移動サービスが存在しており、こうした既存の仕組みを活用しながら、地域全体の移動を支える方策を検討することが重要である。
- ・ 移動の確保は公共交通だけでなく、家族送迎や共助交通など多様な手段を含めて考える必要がある。公的な交通サービスに限定せず、地域や家庭における支え合いも含めた幅広い視点で移動のあり方を整理することが求められる。

- ・ 交通のあり方の整理にあたっては、市町村ごとの個別施策の列挙ではなく、幹・枝・葉の考え方を踏まえながら、地域特性に応じた多様な選択肢を構造的に整理することが重要である。渋滞対策など大量輸送が必要な分野は骨格的な交通軸として位置づけ、その周辺を支える移動手段については多様なオプションを含めて整理する必要がある。

ビジョンのアウトプットの方向性について

安藤委員

- ・ 地域ごとに課題や必要な施策が異なる中で、それらをビジョンにどのように反映するのか整理が必要である。特にネットワーク概略図については、実現可能性やコスト面まで考慮した具体的な計画として示すのか、住民意見を踏まえて将来の大きな方向性を示すものとするのか、その位置づけを明確にする必要がある。
 - ビジョンは将来像や理念を示すものであり、詳細な事業計画は次年度以降の交通戦略等の個別計画に委ねることを想定している。ネットワーク図についても、実現可能性やコストを踏まえた具体計画ではなく、県としての骨格的な軸や、地域が主体的に取り組む際の方向性を共有する概略図として整理する予定である。

親川委員

- ・ 沖縄はレンタカー観光による渋滞への影響を踏まえ、バス等の二次交通を利用した場合の所要時間短縮効果などが見える化し、観光客を公共交通へ誘導する仕掛けづくりを検討する必要がある。
 - 二次交通について、レンタカー事業者や観光事業者と意見交換をして、ビジョンの中で方向性を示したい。(事務局)

南木委員

- ・ ビジョンの実現には行政だけでなく県民の協力も不可欠であることから、県民が移動に関する課題を自分ごととして捉え、行動変容につながるような視点を盛り込む必要がある。
 - 公共交通の整備だけで直ちに利用転換が進むものではなく、県民の行動変容には時間を要する。そのため、交通政策の推進とあわせて、県民参画や行動変容を促す視点をビジョンに位置づけることを検討する。

その他

事務局

- ・ 必要に応じて7月ごろに有識者会議を開催することを検討する。